

グアム島中世人の上顎第二大臼歯に現れた臼旁結節の一例

A Case of Paramolar Tubercule in the Upper Second Molar on a Medieval Guam Islander

竹中 正巳*, 片岡 修**, Richard K Olmo***
Masami Takenaka Osamu Kataoka Richard K Olmo

*鹿児島女子短期大学, **関西外国語大学, ***U.S. Air Force

グアム島ハプト (Haputo) 遺跡から出土した壮年男性人骨の上顎右第二大臼歯の頬側近心咬頭の頬側面に突出している過剰結節が認められ、臼旁結節と診断される。左側の上顎第二大臼歯の頬側近心咬頭の歯頸部側もわずかではあるが隆起している。やはり臼旁結節との関連が考えられる。

Keywords : paramolar tubercule, Guam island, medieval, Haputo site
キーワード : 臼旁結節, グアム島, 中世, ハプト遺跡

1. はじめに

2016年8月、関西外国語大学の片岡修らの発掘調査により、グアム島ハプト (Haputo) 遺跡から壮年男性人骨が出土した (図1・2)。本人骨の上顎左第二大臼歯に臼旁結節が認められた。本稿では、この臼旁結節について古病理学的検討を行った結果を報告する。



図1 ハプト (Haputo) 遺跡 H-16 N3E3 グリッド出土の壮年男性人骨の出土状況

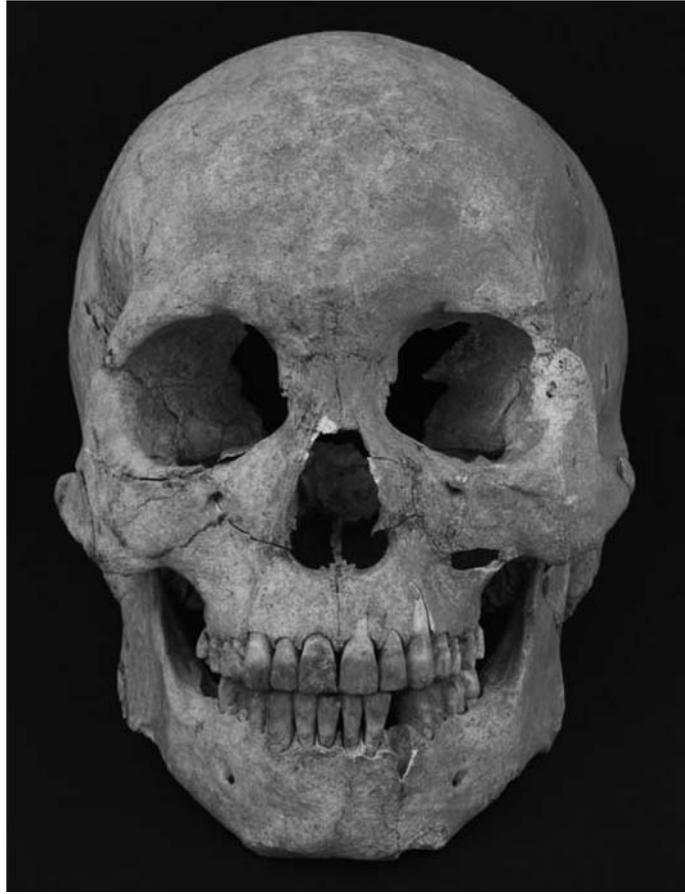


図2 ハプト(Haputo) 遺跡 H-16 N3E3 グリッド出土の壮年男性人骨

2. 資料および研究の方法

本研究に用いた人骨は、グアム島北西海岸に立地するハプト (Haputo) 遺跡のラッテ期村落跡を対象とした発掘調査により出土した。人骨は、村落北端 (グループ I) の 5 対のラッテストーンで構成された H-16 (2.5m×9.2m) の住居下、N3E3グリッドから出土している。 midden の炭化物の C14 年代測定から、H-16 は AD.1330-1485 の時期に営まれた遺構であると考えられる。

人骨は死後、この場所に埋葬され、白骨化後に再び掘られ、腰部から下の各骨が取り去られている。取り去られた大腿骨や脛骨は、グアム島をはじめとするマリアナ諸島で当時作られた人骨製槍先の製作に用いられた可能性がある。人骨の歯には檳榔噛みの習慣によると考えられる茶褐色のステインがエナメル質に認められる。研究の方法は肉眼観察によって行った。

3. 観察結果および考察

ハプト (Haputo) 遺跡から出土した壮年男性人骨の上顎右第二大臼歯の頬側近心咬頭の頬側面に突出している過剰結節が認められた (図3)。過剰結節は歯根へ続いている。Bolk (1914) は、第二、第三大臼歯の頬側面に現れる異常結節を臼旁結節、Tuberculum Paramolare と名付けた。そして、これは他の歯には認められないとした。しかし現在では、臼旁結節は、第二・第三大臼歯だけでなく、第一大臼歯、小白歯、乳臼歯にからも検出されている (藤田, 1963)。本例も、Bolk の定義にかなっており、臼旁結節といえる。

住谷 (1949) によれば、臼旁結節の出現頻度は下顎第三大臼歯の 9.2% を最高に、下顎第一大臼歯の 7.9%、そして第二大臼歯の 2.9% に続く。上顎は第三大臼歯が 1.1%、第二大臼歯が 0.4%、第一大臼歯が 0.2% で下顎より出現頻度は低いといわれている。上顎第二大臼歯の臼旁結節の出現頻度は低い。

本例は左右対称に臼旁結節が出現しているわけではないが、上顎左第二大臼歯の頬側近心咬頭の歯頸部側の部分はずかではあるが隆起している (図4)。これは、やはり臼旁結節との関連が考えられる。田畑・近藤 (2006) は歯の形が歯の発

生の鐘状期初期までにデザインされ、歯冠の結節の変異については発生時に発現する遺伝子の発現量や発現時期の異変に起因すると考えている。臼旁結節形成のメカニズムを知るためにも、歯の形成の分子的メカニズムの更なる解明が待たれる。



図3 ハプト(Haputo) 遺跡 H-16 N3E3 グリッド出土の壮年男性人骨の上顎右第二大臼歯に出現した臼旁結節（矢印：臼旁結節
○：近心頬側咬頭の頬側面の隆起）



図4 ハプト(Haputo)遺跡 H-16 N3E3 グリッド出土の壮年男性人骨の上顎左第一・第二大臼歯の近心頬側咬頭の頬側面に現れた隆起 (○: 近心頬側咬頭の頬側面の隆起)

引用文献

Bolk, L. Supernumerary teeth in the molar region in man. *Dent. Cos.* 56:154. 1914

藤田恒太郎ほか. 小臼歯部における臼旁結節. *解剖学雑誌* 38:109-119. 1963

住谷靖. 日本人における歯の異常の統計的観察. *人類学雑誌* 67:215-233. 1959

田畑純・近藤信太郎. 咬頭はどのようにできるのか—歯の発生・変異・進化と分子メカニズムからの考察—.

Antropological Science (Japanese Series) 114:57-62. 2006

(2016年12月2日 受理)